



大橋博

学校法人創志学園 環太平洋大学
理事長

おおはし・ひろし氏

- 1944年生まれ。
- 1966年 関西大学法学部卒業
- 1975年 株式会社神戸教育センター(現・創造学園)を設立。代表取締役就任
- 1981年 財団法人総合教育研究財団 理事長(現在、理事)
- 1989年 New Zealand政府許可 International Pacific College(大学・大学院)理事長
- 1992年 学校法人国際情報学園 理事長
- 1995年 学校法人愛媛女子学園 理事長
- 1995年 愛媛女子短期大学 学長
- 2001年 兵庫教育大学大学院修士課程修了
- 2001年 学校法人愛媛女子学園に学校法人国際情報学園を合併
- 学校法人創志学園と名称を変更 理事長
- 2001年 財団法人こども教育支援財団 理事長

環太平洋地域の大学ネットワーク化を二層推進させたい

1987年8月、ハワイ・ホノルルに各国大学人や教育関係者を集め、「21世紀の大学はどうあるべきか」を語り尽くしました。グローバルな視野を持ち国際的に通用する人材を育成するには、国境を越えた大学ネットワークが必要不可欠。複数の国にキャンパスのある大学を造りたいという夢と志を「International Pacific University 構想」としてまとめ上げました。

この構想の第1ステージとして1990年、ニュージーランドに開学したのがInternational Pacific College (IPC)。北米やアジアなど環太平洋地域でキャンパス候補地を探し歩くなか、ニュージーランドで立ち寄ったパーマストンノースという都市で市長と意気投合。治安の良さと豊かな自然に感銘を受け、ここで大学教育ができれば夢のようだと思い、直感的にその地での開学を決めました。とはいえずんなりと開学できたわけではなく、基本的に公立大学以外は認めない国での私立大学の認可取得にはタフな交渉も必要でしたが、最終的にはニュージーランド政府からも大きな共感を勝ち取り、私どもの夢の第一歩を踏み出すことができました。現在IPCは世界20カ国から学生が集い、その70%以上が英語圏以外の学生であり、英語力に自信がなくても安心して留学できる大学という一定の評価を確立できたのではないかと自負しています。

「教育と体育の融合」を目指して

構想の第2ステージとして2007年、岡山県岡山市に開学したのがIPU・環太平洋大学です。本学は「教育と体育の融合」という基本理念を掲げています。もともとわが国では「知徳体」が大切といわれますが、その融合を実現している教育機関を私はあまり知りません。社会人として活躍するにも、家庭人としてしあわせをつかむにも、当然ながらそれらがベースとなるでしょう。そこで本学はこの理念を掲げるとともに、次世代教育学部と体育学部を設置して、教育と体育の知見や

経験を社会に還元できる人材の育成を目指してスタートしました。学生の具体的なキャリアプランとしては、大学4年間で徹底してスポーツに打ち込み、そのうえで教育学も十分に学び、卒業後に教員になるという道筋が典型的なものです。教員として現在の過酷な教育現場に入っていくにも、スポーツで培われる根性や努力する姿勢、チームワークといった要素は本人にとって大きな支えとなるだろうと考えています。

そのような大方針のなか、大学として、まずはとことんスポーツに注力する戦略を立てました。最初にお声がけしたのはオリンピック金メダリストの柔道家、古賀稔彦氏。立派な道場を建てることを条件に指導者としてお招きしました。それがスポーツ界にインパクトを与えたようで、その後続々とハンドボールや野球、陸上競技など各種目トップクラスの指導者が集まりました。本人だけでなく部員集めも同時にしてくださり、本学一期生の顔ぶれは彼らの努力の賜物といえるものとなりました。今も全国に広がる本学の学生募集ネットワークは、その時に構築されたといっても過言ではありません。安藤忠雄氏設計のアスリートホール「TOPGUN」など世界基準のスポーツ施設を完備し、こうした環境から日本代表として世界大会へ出場するまでになった選手が既に40人を超えました。本学のスポーツ分野は、社会的に十分認知されるようになったのではないかと考えています。次なる目標は、教育分野の充実。そのために「教職支援室」という組織があり、教育実習や保育実習をきめ細かく実践するとともに、教員採用試験で高い合格実績を挙げるべく1年次から4年次まで多彩な試験対策講座を開講しています。

本学として一番アピールしたいポイントは、学生を4年間で大きく成長させる力。「4年後に責任を持つ大学」というキャッチフレーズも掲げ、今年度よりメンター制度や初年次教育を本格的にスタートさせました。開学からここまでは比較的順調にきましたが、これから

の厳しい経営環境を生き抜いていくには、本学のアピールポイントを社会にしっかりと認識してもらうため一層の努力が必要だと考えています。

経営関連の新学部を構想中

新しい大学で、環境整備はまだ十分とはいいがたく、それを行き届かせることも当面の課題と考えています。「これぞ大学だ」と学生から仰ぎ見られるような校舎や施設を引き続き造っていきたいのです。昨年11月、最新設備を備えた新たな体育館を竣工しました。これは創設4年で全国大会5位(大学では最上位)へと登りつめたマーチングバンド部などに対する大学からのご褒美であり、今後への期待をこめた贈物ですが、これを見た学生や教員が「もっと頑張ろう!」と思って頑張ってくれば、こちらはもっと良い環境を用意したくなるでしょう。そのようにある意味で学生と大学が刺激し合い、励まし合って大学全体として高みを目指していくこともまた大学経営の大いなる醍醐味と思っています。

来年頃には“水上建築”のようなイメージの新校舎建設を計画しています。そこに第3の学部を想定しており、現在、経営関連の新学部を構想中です。大学でスポーツに打ち込んだ学生が将来的にビジネスの世界に入り、営業職や企画職として活躍できるよう、現場で即実践できるスキルを現場の第一線の先生方から学べるような学部を目指したいと考えています。

学校法人としては、第3ステージを目指します。IPC、IPUに次ぐ第3のキャンパスを環太平洋地域に設置したい。「International Pacific University 構想」という大きな夢をどこまでも追いかけていきます。

